

28年11月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成28年 11月1日～ 28年11月10日

2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
11月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		28/11月	12月	29/1月
入荷動向	スギ	0.0	60.0	△ 20.0
	ヒノキ	△ 25.0	0.0	0.0
	カラマツ	0.0	20.0	0.0
	トドマツ	16.7	33.3	0.0
消費動向	スギ	33.3	0.0	40.0
	ヒノキ	25.0	△ 25.0	25.0
	カラマツ	33.3	20.0	20.0
	トドマツ	33.3	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 16.7	20.0	20.0
	ヒノキ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	カラマツ	△ 33.3	△ 20.0	△ 20.0
	トドマツ	33.3	33.3	0.0

・スギ合板原木の入荷は11月の横ばいが、12月は増加、1月は減少。ヒノキは11月の減少が、12月、1月は横ばい。カラマツは11月の横ばいが、12月は増加、1月は横ばい。トドマツは増加傾向が、1月は横ばいに。

・スギ合板原木の消費は11月の増加が、12月は横ばい、1月は増加。ヒノキは11月の増加が、12月は減少し、1月は再び増加。カラマツは3ヵ月連続して増加。トドマツは11月の増加が12月、1月は横ばい。

・スギ合板原木の在庫は11月の減少が、12月、1月は増加。ヒノキ及びカラマツは3ヵ月連続して減少。トドマツは11月、12月の増加が、1月は横ばい。

(2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	28/11月	12月	29/1月
スギ	16.7	0.0	△ 20.0
ヒノキ	0.0	0.0	0.0
カラマツ	16.7	20.0	20.0
米マツ	75.0	50.0	25.0
北洋カラマツ	33.3	33.3	0.0
その他	0.0	0.0	0.0

・スギ合板原木の価格は11月の強含みが、12月は横ばいが、1月は弱含みに。ヒノキは3ヵ月連続して横ばい。カラマツは強含み。

・米マツは強含み。北洋カラマツは11月、12月の強含みが、1月は横ばいに。その他は3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

- ・スギは安定入荷、カラマツは予定より遅れて入荷。生産量は先月と変わらず横ばい。生産に合わせての入荷で在庫は横ばい。
- ・スギの入荷は順当で置き場がない状態、盆前後から虫害材が増えて困っている。置き場が無いほどスギ在庫が増えた。カラマツ、トドマツは、今後在庫を積み増しする見込み。
- ・冬場対策で入荷を願う量が集まらない。消費は変わらず。冬場に向け少しづつ在庫増。
- ・スギのみ入荷計画量を下回る。スギ材の在庫が減少、中旬からの納材に期待。
- ・スギ丸太の入荷を増やす、ヒノキは減らす。年末年始は消費が減る。スギ在庫を増やし、ヒノキは減らす。
- ・カラマツ以外順調な入荷。生産がフルで消費は増。

(原木価格)

- ・現在は安定している。
- ・国産材価格は横ばい。外材は中国への出荷が堅調だが、出材が低調なため、全体的に価格は上昇、旧正月まではこの傾向が続くと思われる。
- ・群馬県産のカラマツが上昇中。
- ・横ばい。
- ・スギは在庫を増やしたいため、価格を上げて様子見る。
- ・まだ、東北地区は上昇ないが、関東、西地区は上昇気配。

28年11月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		28/11月	12月	29/1月
生産動向	構造用(9mm)	0.0	20.0	0.0
	// (12mm)	42.9	33.3	16.7
	// (15mm)	14.3	16.7	0.0
	// (24mm)	57.1	33.3	16.7
	// (28mm)	42.9	33.3	16.7
出荷動向	構造用(9mm)	0.0	0.0	0.0
	// (12mm)	14.3	16.7	16.7
	// (15mm)	0.0	0.0	0.0
	// (24mm)	28.6	33.3	16.7
	// (28mm)	28.6	16.7	16.7
在庫動向	構造用(9mm)	△ 20.0	△ 20.0	△ 20.0
	// (12mm)	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	// (15mm)	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
	// (24mm)	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	// (28mm)	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0

・構造用合板の生産は、9mmが11月の横ばいが、12月は増加し、1月は横ばいに。15mmは11月、12月の増加が、1月は横ばい。12mm、24mm及び28mmは3ヵ月連続して増加。

・構造用合板の出荷は、9mm及び15mmは3ヵ月連続して横ばい。12mm、24mm及び28mmは3ヵ月連続して増加。

・構造用合板の在庫は、全ての品目が3ヵ月連続して減少。

(2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	28/11月	12月	29/1月
構造用(9mm)	16.7	0.0	0.0
// (12mm)	28.6	0.0	0.0
// (15mm)	14.3	0.0	0.0
// (24mm)	28.6	0.0	0.0
// (28mm)	28.6	0.0	0.0

・構造用合板の出荷価格は11月の強含みが、12月、1月は横ばい推移に。

モニターからのコメント

(構造用合板の荷動き)

- ・非構造用が減るので、9mm、28mm以外の生産は増加。特に24mm、28mmの引合いが強い、生産した商品は全て出荷。低水準の在庫で推移。
- ・フル生産。製造すると直ぐ出荷。在庫がなく製品不足が考えられる。フル生産に努力。
- ・少量生産なので販売は変化なし。
- ・生産は例年の1割増、稼働日はMAXの生産計画。在庫は全品種で減少。
- ・工場はフル生産、発注状況に合わせての生産内容、12mmネダノンの引合い強く、生産状況に合わせての出荷。在庫は低水準のままで増える見込みもない。
- ・不足を補うため、出来るだけ生産増へ。在庫少なくて出荷出来ない製品もある。更に在庫減に。

(構造用合板の価格)

- ・10月より値上げ継続。
- ・変わらず。
- ・横ばい。
- ・今後の価格上昇に期待。
- ・価格安定、安価なところは値上げ傾向。